授業科目名	幼児と言葉	担当教員名	松田 智子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-領域に関する専門的事項 言葉 / 保育内容の理解と方法
必修･選択/単位数	必修 / 1単位（15時間）	授業方法/担当形態	演習 / 単独
開講学年/学期	1年 前期 (1期) / 年間開講数 2講座	特記事項	※「保育内容の理解と方法」の指導内容を含む
授業の概要 及び 全体目標	人間にとっての言葉の意味と機能とは何かを理解するとともに、話し言葉と書き言葉の意義と機能の違いについて理解する力を養う。さらに、乳幼児の言葉の発達の道筋（言葉誕生以前、一語分から2語文へ、会話の成立、思考としての言葉の出現、書き言葉への興味）が理解できて、その時期に応じた支援のありかたについて、具体的な姿を通して理解を深める。乳幼児の言葉を育てる児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の機能面の特徴を理解し、それらを有効に活用できる実践的な力を育てる。 ※ICTの活用、協働学習を含む。。		
到達目標	⑴人間にとり、言葉の意義や機能を理解するとともに、子どもの発達段階に応じた言葉の意味も理解する。 ①言葉の機能として「言葉での表現がコミュニケーションを支える。言葉により世界のとらえ方を変えることにより、思考を支える。言葉は、イメージの世界を広げる。」という役割を持つことを、具体的事例を通して理解できる。 ②言葉には、話し言葉と書き言葉があり、それぞれに特徴があることを理解し、その言葉の機能を具体的に説明できる。 ③子どもの言葉の発達と道筋（言葉誕生以前、一語文から2語文へ、会話の成立、思考としての言葉の出現、書き言葉）を理解し、具体的な姿として説明できる。 ⑵言葉に対しての乳幼児の感覚を豊かにするために、具体的な発達に応じた支援についての基本的な知識（教材も含む）や技能を獲得する。 ①子どもの心身の発達や子供を取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解したうえで、子どもの生活と遊びを豊かに展開するとともに、乳幼児の発達に応じた言葉を育てるために必要な実践的な知識や技能を習得している。 ②保育における児童文化財等（絵本・物語・紙芝居等）の教材活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得している。		
テキスト	「保育内容言葉ー基本的事項の理解と指導法ー」戸田雅美編集(建帛社)		
参考書・ 参考資料等	「平成29年度告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保認定型こども園教育・保育要領 原本」（株式会社チャイルド本社） 資料として、毎時間プリントを配布し、ミニレポートを書いて、授業を進める。		
成績評価の方法	授業後のワークシートでの理解度チェック毎回（50%）レポート(30%）受講態度積極性(20%）		
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	事前学習については毎回の授業後に指示する。授業中のワークは毎回提出し、次の時間に返却する、その時に疑問点や多い間違いについては、解説を行う。 オフィスアワー 金曜日 授業終了後(講師控室）質問事項を質問シートに記載し、学務室経由で事前に提出すること。		

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第1回	人間にとっての言葉の意義と機能 ①コミュニケーション ②思考の手立て ③イメージをする ④コントロールする	⑴-①,⑴-②
第2回	乳幼児の言葉の育ちの一般的な道筋 ① 言葉の育ちの道筋を知る意味 ①0歳から5歳までの大まかな言葉の育ちの特徴	⑴-①,⑴-②, ⑴-③
第3回	年齢に応じた、言葉の育ちの特徴と、保育者としての支援 ①言葉誕生以前 ②1語文から2語文へ ③語彙の爆発 ④会話の発達 ⑤思考を促す言葉 ⑥話し言葉から書き言葉へ	⑴-②,⑴-③
第4回	言葉に対する感覚を豊かにする実践 ①言葉の美しさや楽しさをについて、具体的な例で説明 ②言葉遊び等の言葉の感覚を豊かにする実践の基礎的技能	⑴-①,⑴-②,⑴-③, ⑵-①
第5回	言葉に対する感覚を豊かにする実践 ①言葉の美しさや楽しさをに気づき、言葉を豊かにする手遊び等の実践 ②お互いの実践を相互評価し話し合い、振り返り自己改善	⑴-①,⑴-②,⑵-①
第6回	幼児にとっての児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義とそれぞれについての基礎的な知識の理解 ①乳幼児の言葉の育ちに合わせた絵本の特色と選択	⑴-①,⑴-③,⑵-①
第7回	各年齢に応じた絵本を選択し、乳幼児に読み聞かせる保育実践 ①絵本の読み聞かせの基本的な技能 ②絵本選択のポイントの評価 ③読み聞かせ実践の相互評価	⑴-③.⑵-①,⑵-②
第8回	絵本以外の児童文化財を選択し、保育実践(共同でグループで実践) ①保育の領域「言葉」のねらいとの整合性 ②それぞれの児童文化財活用の環境設定 ③相互評価と改善	⑴-①,⑵-①,⑵-②